

CLC からしだね書店便り

2025 June

no.54

今月のご案内

- ① 連載「歴史と対話し歴史に学ぶ」第6回
- ② からしだねの癒し犬『デブ』人形と
『デブより 愛をこめて』
&デブちゃん募金箱について
- ③ 新企画 ちょっと早めの 私の遺言 第一回 大頭眞一牧師
- ④ いのちのことは社 オリーブス おすすめ情報
- ⑤ 書店員の今月のコラム
『「宗教の自由」と「信教の自由」』

CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落 でかわいい 雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。ドリンクを片手に、本をお楽しみください。
- ⑤ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑥ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。



CLCからしだね書店 & カトライン

営業時間 11:00-17:00

日曜日と年末年始（※祝日も営業）

定休日 毎月第3木曜日は書店のみ営業

今回は、信仰はどこから来るのかという問題と、信仰によって自発性は失われるのか、それとも主体性を確立することになるのかという問題を中心に、叔父さんと甥とが対話します。叔父さん自身の信仰の立場も明らかになっていきます。



連載第六回 信仰の受動性と主体性

山田はじめ (三六六)

この前有ちゃんは『歎異抄』を読んだと言っていましたか、どこに興味をもちましたか。

森下有一 (高二)

親鸞と法然の他の弟子たちが激しく議論したところかな。親鸞が自分の信心も法然の信心も同じだと言った時、他の弟子たちはそれを厳しく非難した。親鸞は師法然に知恵や学問では劣るけれども、信心は同じだと言いつつ、法然に判断してもらったことになった。法然は、親鸞の信心も法然の信心も「如来よりたまりたる信心である」と語った、という箇所です。「地獄に墜るほかない」と言っていた親鸞が、ここでは強烈な自己主張をしているように感じて、面白いな、と思いました。

はじめ

なるほど、僕もこの箇所は好きですね。今も問題だらけの僕(第五回参照)には、「如来よりたまりたる信心」という言葉に非常に感銘を感じますね。有ちゃんは若くて僕と違ってアクリティブだから、自己主張の方に興味をもつのでしょうか。この箇所は信仰をめぐる重要な問題を抱えているので、今日はその点をいっしょに考えましょうか。信仰は「与えられる」という受動的な側面と、「私一人」という強烈な自己意識、主体性の二つの側面があるようです。これはどのように関係するのでしょうか。

有一

前から引つかかっていることがあります。何か良いことをしたらその功績によって救われる。これに対して、キリスト教は信仰によって救われると言いつけれども、二つは発想としては同

という和讃を詠んでいます。正直僕はどうも惹かれますね。

ルターは、大学の学びを途中でやめて修道院に入ります。修道院の間は、ルターはあれだけ修行しているのだから天国に行くに違いないと、思ったようです。しかし、彼自身は神の厳しい要求に耐えかねて、逆に神を憎むようにさなつた、と後年語っています。『キリスト者の自由』では、「生活と行ないとはすべて神の前に無であり、…永遠に滅びるほかない」と言っています。

有一

そのような自己理解からは、自分の生まれつきの信心や信仰心によって救われる、という発想は出てこないでしょうね。

はじめ

ええ。親鸞は「如来よりたまりたる信心」を見出し、ルターは人間がもつ生来の信仰心ではなく、「神の言葉によって惹き起こされる信仰」によって救われる。「信仰とは神の働きである」と理解するようになります。ルターも親鸞も信仰(信心)は、人間に本来具わっているのではなく、神(仏)から与えられたものである、と考えています。

有一

でもそうすると、人間の自発性はどのようなのでしょうか。

はじめ

僕はこの問題を二重に考えています。実際に問題に直面した時、神を信じて歩むかどうかとても葛藤しながら信じます。そこには確かに自分の意志で信じたという部分があります。しかしそのことを後で振り返った時、背後に神の働き、恩寵があつて、自分の自由意志と呼べるようなものは見つからない。親鸞なら信心は如来から

じゃないでしょうか。「信仰」が一種の功績になっていてギブ・アンド・テイクの関係にある、と思ふんです。一方、「如来よりたまりたる信心」は、この発想を転換すると思いますが、そうすると、人間の尊厳性はどこにあるのか、気になります。

はじめ

とても難しいですね。後者には信仰はどこから来るのかという問題と人間の自発性はあるのかという問題が関わっています。キリスト教に関して言えば、これは昔から自由意志と恩寵をめぐる、激しく論じられてきました。アウグスティヌスは恩寵を強調しました。人間の意志が救いに関わることが出来る(自由意志)とするエラスムスに対し、ルターは、自由意志は神にのみ属し、人間の本来の意志は罪と律法の下にある奴隷的意志であると主張しました。有ちゃんは反発するのでしょうか。

有一

神学論争は僕には難しいので、おじさんがどう考えているのか、簡単に説明してもらえますか。

はじめ

まずその人の自己理解が深く関わっていると思います。

親鸞やルターは、自分のどうしようもない悪や罪の現実のなかで、この問題を考えていたと思います。親鸞は九才の時に家の事情で出家。当時の仏教の中心地、比叡山で二十年間一生懸命修行した。しかし、何ら悟りをひらくことができなかった。「自分は地獄に墜るしかない」と絶望していた時に、法然と出会います。彼は信心が明確になった後も、「真実の心はありがたし、虚偽不実のこのみにて」[内心は嘘偽りのわが身であつて]「清浄の心もさらになし」



来るし、ルターなら信仰は神の言葉の働きから来る。恩寵論や奴隷意志論は、罪を自覚した人間の反省的自己理解ではないか。反省的自己理解の点で僕はルターの立場に立ちます。これには当然いろんな批判があると思います。あくまで僕の自己理解で、一般化するつもりはありません。

有一

僕にはそのような経験はまだよく理解できません。でも、そのような自発性を否定するように見える信仰から、事実としてヴォルムス帝国議会におけるような皇帝や教皇に対しても自己の自由を主張するという態度(第四回参照)が如何にして出て来るかは、とても興味があります。親鸞も権力に対して、明確な自己主張をしているのでしょうか。

はじめ

主著『教行信証』で、朝廷が法然とその弟子たちを弾圧したことを、「主上」「天皇」と臣下は仏法に背き正義に反した」と明確

デブちゃん募金箱

こんにちは。ぼくの名前は、デブです。

今は天国で、イエスさまのそばで くらしています。

ぼくは、大阪の陸上自衛隊信太山駐屯地の山の中で生まれました。

生まれてまもなく保護されて、やさしいボランティアのみなさんに助けられながら、さいごに からしだね館の理事長の家に やって来ました。

毎日、理事長と一緒にからしだね館に出勤して、からしだね館のみんなに、ものすごく可愛がってもらったというお仕事をしました。からしだね館にやってくるお客さんたちも『かわいい、かわいい』とおやつをくれたり、からだをなでてくれたりしました。月に一回は、理事長といっしょに書店の配達にも行きました。そこでも教会や幼稚園のみなさんにたいへん可愛がってもらいました。

天国にいくちょっとまえは、おもしろをしたり、ごはんがなかなか食べられなかったり、うまく歩けなかったりして、ちょっと悲しかったのですが、からしだね館のみんなはちっとも怒ったりせず、おしっこの始末をしたり、トイレにつれだしてくれたり、ごはんを食べさせてくれたりしました。

ぼくは、たくさんの人たちに見守られながら、ものすごく幸せな一生をおくることができました。みんな、ほんとに、ありがとう！！

「デブより 愛をこめて」



京都土人形しろ



この にんぎょうは、からしだね館の癒し犬だった「デブ」です。

2024年7月24日天に旅立ちました。16才でした。

このたび、「京都土人形しろ」の、城啓子さんが、

在りし日の姿を再現してくださいました。

デブのようにみなしごになった動物たちが、

幸せに暮らすことができるよう、

書店の中に、「デブちゃん募金箱」を置きました。

募金箱の中に集まった皆様のお気持ちは、行き場を失った犬や猫の救援活動をしている「犬猫みなしご救援隊」に全額寄付します。



ありがとう！



中谷博幸（なかにひろゆき）

1953年奈良県生まれ。香川大学名誉教授。主な研究対象はヨーロッパ文化史、特にドイツ近世キリスト教文化。

に述べています。その時、親鸞も越後に流されました。天皇を明確に批判した仏教者は珍しいのではないのでしょうか。受動的な信仰から如何にして主体的な行動が出て来るか、その鍵は信仰が目に見えないという点にあると思います。話ばかりと飛びますが、僕の父、有ちゃんのおじいさんは、僕のことを心配してよくお百度をしていました。

お百度って、何ですか。



はじめ.. ある願いをもって、神社やお寺の境内などを百回回る事です。そのことを通じて祈願がかなうように願う宗教行為です。興味深い点は、本人に代わって他の人が出来ることです。父は僕に代わってお百度をしてくれました。一般に儀式や修行などの宗教行為は、他の人が代わってすることが出来ます。その行為は目に見えないので、実際にしたかどうか確認できる客観性を備えているからです。ところが信仰となると、その人が本当に信じているかどうかは目に見えないので、他の人が代わって信じているかどうかは内面的で外からは見えないという点とその結果、代替が不可能な点が信仰の大きな特徴です。信仰は、あくまで私が信じなければなりません。ここに、他では置き換えることのできない「独一な私」という意識が生まれてきます。信じることは誰も助けてくれない。

宗教行為や儀式なら、誰かが代わってしてくれることも可能です。信じようとする時、他から切り離された裸の自己に直面します。ただ一人で「神の前に立つ私」の発見です。この「私一人」の発見は他者の「私」の発見に至ります。自由の基礎はここにありま。神の言葉以外の何によっても侵されない「私」と「他者」については、以前（第四回）話しましたね。

親鸞にも、同じことが見られます。弥陀の救済は「ひとへに親鸞一人がため」と言い切っています。これは、「独善的な一人」意識ではなく、弥陀によってのみ救済された喜びと感謝から発せられた言葉です。同時に彼は、「弟子一人もたずさざる」と言いました。一人一人は弥陀の直接的な働きによって救いに与った存在なので、互いに独立した存在である。「一人」の自覚は他を排除することなく、親鸞においても「他者」の発見を伴っています。

有..

おじいさんは親鸞にかなり共鳴しているようですが、親鸞の言うことも信じているのですか。

はじめ..

いいえ。人間として共感し尊敬していますが、親鸞とキリスト教とは明確に異なっていると思います。今度、その違いについて考えましょう。



（続く）

書店の役割はたくさんありますが、そのひとつが、だれかの「生きる」に寄り添うことだと自負しています。とは言え、そんなたいそうな事でもなく、暇つぶしに書店に立ち寄って手にした本のページをめくったら、「うわあ、今の自分にピッタリくる言葉に出合った」みたいな寄り添い方です。

私たちは、この世に生まれて、生きて、そして死にます。実感として理解し体感できるのは、この「生まれて、生きて、死ぬ」短い時間の中のことだけです。この短い時間を文学的に表現するなら「人生の旅」ということになるでしょう。

人生の旅の途上にいる私が、旅を終えた後のことを、少しでも意識して、今、想うことを書いてみよう、というのがこの企画です。

「遺言」を書いた人は、今を生きる自分が、何を大切にしているのかが、見えてくるかもしれませんし、それを読んだ人は、自分が何を大切にして今を生きているのか、考えるきっかけになるかもしれません。

一番バッターは、大頭真一牧師です。なぜ、一番バッターなのかというと、「書いてもらえませんか？」とお声かけしたら、即、メールで送ってきてくださったからです。

これから、いろいろな人達に「遺言」を書いていただいて、いつかまとめて本にすることを目論んでいます。声がかかった方は、ぜひ前向きに、よろしくお願いいたします。

ちよつと早めの

わたしの遺言

「ひよつとしたら、ちよつと遅めの遺言」

京都信愛教会／天授ヶ岡教会／明野キリスト教会牧師 大頭真一



「ちよつと早めの遺言を」と、からだね店頭で、坂岡恵店長から言われた時、ぼくは同行していた童話作家岩佐めぐみんと顔を見合わせた。きつとたがいになにか感じるものがあつたのだと思う。

ぼくは、と言えばその3ヶ月前に、3本ある心臓冠動脈3本中2本が閉塞して、救急搬送されたばかり。この状態で救急車に乗ると生存率は60%と言われる危機をやり過ごした。だから、これは、ちよつと早めの遺言ではなく、ちよつと遅めなのかもしれない。

思い出すのは、二回目のカテーテル手術の前日だ。ふと思つたのだ。こういうときは普通、もし生還したら、これからは、与えられたいのちを〇〇のように生きていこう、と思うのだろうな、と。ひとつとみたいで申し訳ないが、ぼく自身の答は、シンプルだった。

今、生きているように生きる、と。

そこで遺言だ。

① 生きたいように生きろ。
あなたがほんとうにやりたいことは、神と人を愛することだから。

② 変わり続ける。
あなたは旅する神の旅する民なのだから。

③ トラブルを楽しめ。
それはよりよき世界へのドアなのだから。

あとは、忘れた。それでは、お元気で。生きていたら、また会おう。死んでしまっても、また、会える。

大頭真一

2025年6～7月の新商品をご紹介します

2025レーナ・マリア コンサートツアー記念

5年ぶりに、レーナ・マリアコンサートツアーを開催しました。
クラウドファンディングにより実現したツアーをCDでもお楽しみください！
新アルバム「花も」や、コンサートツアーに伴い
再プレスしたCD「Japan in My Heart 朝の始まり」他も発売中です！

入荷
済み



CD「Flower~花も~」
48937 税込 ¥2,000

NEW

収録曲

花も
He is my everything (エルヴィス・プレスリー)
Through it all (アンドレ・クラウチ)
一羽のすずめ2025
I Don't Know Why (アンドレ・クラウチ)
明日にかける橋 (サイモン&ガーファンクル)

再
プレス!



CD「Japan in My Heart 朝の始まり」
48822 税込 ¥2,420

DVDドキュメンタリー「神の沈黙」ーキリシタン弾圧と原爆ー

7月7日
発売予定

プロテスタント・キリスト者の
視点から、長崎のキリシタン
弾圧と原爆投下の意味を紐
解く映像作品！
キリシタン弾圧と原爆投下と
いう歴史上の2つの悲劇に際
して、神はなぜ沈黙していた
のか？その疑問を音楽宣教師・
久米小百合と共に追う、神の
沈黙をテーマに制作したドキュ
メンタリー作品です。



監修：山口陽一郎（東京基督教大学特任教授） ナビゲーター：久米小百合 本編83分+特典映像 49166 税込 ¥4,180

いのちのことば社
オリーブス おすすめ情報

月報6

初夏にピッタリ新商品のご紹介！

Tシャツ各種

おしゃれなTシャツが新登場！シンプルな4絵柄でサイズもお選びいただけます。



A



B



C



D

推し point

Printstar製の綿100%のTシャツ
は肌触り抜群！柔らかく高品質な
布地にこだわりました。
老若男女に受け入
れられるデザイン
を考えました。

〈デザイナーYより〉

A オリーブ 谷川の産

50503 Sサイズ
50504 Mサイズ
50505 Lサイズ
50506 XLサイズ

<背面> ※表面無地

B ホワイト 魚とパン

50515 Sサイズ
50516 Mサイズ
50517 Lサイズ
50518 XLサイズ

各 税込 ¥2,530

	身長	身巾
S	66cm	49cm
M	70cm	52cm
L	74cm	55cm
XL	78cm	58cm



C ネイビー FREE CONNECT to GOD

50511 Sサイズ
50512 Mサイズ
50513 Lサイズ
50514 XLサイズ

D ブラック ひつじ

50507 Sサイズ
50508 Mサイズ
50509 Lサイズ
50510 XLサイズ

レジャートートバッグ

たっぷりサイズのレジャートートバッグです。
お買い物にもアウトドアのお出かけにも、いろいろ使える便利なアイテムです。

各 税込 ¥1,320



50526 ベージュ 風景画



50527 オリーブ花々

推し point

水に濡れても丈夫な素材で、
夏のレジャーや水遊びに最適！
洗濯物を入れる
ランドリーバッグ
にも使えます。

〈デザイナーTより〉

アメリカのことが、とても気になっています。

第二次トランプ政権が発足する前から、いろいろな気になることだらけではあるのですが、特にホワイトハウスに「宗教の自由」に関する新たな組織が設置されたことが気になります。

その名も、ホワイトハウス信仰局 (White House Faith Office)。

ウィキペディアによると、「アメリカの家族を強化し、仕事と自立を促進し、宗教的自由を保護するための、信仰に基づく団体、地域組織、および礼拝所の取り組みを支援する」組織のことです。

局長に任命されたのは、トランプ氏の宗教顧問を勤めてきたポーラ・ホワイト氏です。ホワイト氏は、繁栄の神学を掲げるメガチャーチの牧師・テレビ伝道師として活動し、2017年の第一次トランプ政権の発足時に、女性聖職者としては初めて

宗教の自由と 信教の自由

欺きの言葉を見分けるための祈り

ならない」という「内心の自由」のことではないでしょうか。しかし、どうやらアメリカ信仰局や旧統一教会が言うところの「宗教の自由」は、「内心の自由 (思想・良心・信教の自由)」とは、全く正反対の概念のようです。

「内心の自由」は、個人が心の中で何を信じ、何を考え、どのように表明するかについて、国家が制約してはいけない、個人の内面にまで立ち入ってはいけないという、人の尊厳を保障するものです。ということは、その自由が内心を飛び出して他者の内心の自由を侵害する「ことも当然のことながら許されません」。

これに対して、ホワイトハウス信仰局や旧統一教会の言う「宗教の自由」は、宗教団体が自らの教義に基づいて、社会の制度や政治に影響を及ぼしていく自由を認め、それを侵害する他者を許さないという考え方のようです。しかも、「宗教の自由」が認められるのは、国家や権力者が認める宗教団体、つまり権力者の利害と深く結びついている団体に限られているようです。

「宗教の自由」という、合衆国憲法に保障された言葉・表現を用いて、それを耳にした人の普遍的な「信教の自由」「思想の自由」「良心の自由」という価値観を巧妙に歪めようとしている。そのうえで、特定の宗教団体や権力者の不正・搾取・人の尊厳を蔑ろにする行為を、力づくで容認させようとしている。そんな巨大な力の蠢きを感じて、私はとても怖いのです。

実際、トランプ大統領は、ボンディ司法長官に、連邦政府内の反キリスト教的偏見を根絶するための専任チームを指揮するように命じたと言います。そして「宗教的差別からキリスト教徒を守るための措置を発表し、あらゆる反キリスト教的な攻撃や差別を直ち

大統領就任式で祈禱した人物です。

「信仰局」の存在そのものにも、たいへん不安を感じるのですが、なかでもホワイト氏が、昨年12月8日に東京で行われた旧統一教会の関連組織である国際宗教自由連合 (ICRF) 日本委員会のイベントに、ビデオ応援メッセージを送っていることは見過ごせません。

ホワイト氏はビデオの中で、「日本の宗教の自由が脅かされていることを心配している」と言い、トランプ政権発足後にアメリカ国務省が出した「世界の信教の自由に関する年次報告書」を根拠にして、「安倍晋三首相襲撃事件以降、旧統一教会 (世界平和統一家庭連合) が日本において、不寛容、差別、迫害キャンペーンの犠牲者になっている。刑事事件を起こしたことの旧統一教会への解散命令請求は慣例を逸脱したものだ」と言っています。また、日本の厚生労働省が作成した「宗教の信仰等に関する児童虐待等への対応に関するQ & A」によって、「エホバの証人の信者が追いつめられている」とも言っています。さらにこれらは、「日本のマイノリティに対する宗教の自由を侵害するものであり、エホバの証人と旧統一教会に対しての権利侵害をやめるように」と、国連にも提言しているそうです。このホワイト氏のメッセージでは、旧統一教会やエホバの証人が宗教組織として行ってきたことにより、犠牲となった人達虐待を受けた子どもたちのことには、全く触れられていません。

さて、「宗教の自由」という言葉で私たちが真っ先にイメージするのは、日本国憲法第19条の「思想及び良心の自由は、これを侵しては



にやめさせる」としています。

かつて、日本は同じことをやりました。天皇を現人神とする「宗教の自由」がすべてを生耳り、それにそぐわない思想や信条を持つ者たちの存在を認めず排除し、制裁を加えました。当時のキリスト教会は自由に礼拝を守ることも許されず、ある人たちは国の押し付け「宗教」に妥協し、ある人たちは牢に放り込まれました。

今、「ポーラ・ホワイト牧師」と検索すると、旧統一教会 (世界平和統一家庭連合) に関連する動画や記事がたくさん出てきます。中には「クリスチャン」「牧師」を「名乗って」、トランプ大統領やホワイト氏の「お墨付き」を盾に、「旧統一教会を迫害するのは、世界の中で日本ぐらいのものだ」というようなことを流布している人もいます。

このような欺きの言葉を見分ける力を、せつに神に求め、祈らずにはおれません。

店長 坂岡 恵

注1

「宗教の自由」= アメリカ合衆国憲法修正第1条 (Amendment 1) Congress shall make no law respecting an establishment of religion, or prohibiting the free exercise thereof; or abridging the freedom of speech, or of the press, or the right of the people peaceably to assemble, and to petition the Government for a redress of grievances. (連邦議会は「宗教の設立を尊重する法律、宗教の自由な実践を禁止する法律、言論の自由や出版の自由、国民が平和的に集会し、政府に苦情の救済を請願する権利を制限する法律を制定してはならない。）」



国際宗教自由連合 (ICRF)
日本委員会の動画

古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただくとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。)



【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 5 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みのCD・DVD・月刊誌・週刊誌、自分史・教会の記念誌などは受け付けておりません

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

クライストコミュニティ宝塚チャペル様、みき ^{たけし} 健様、小室 望様(順不同)

5月の古書の収益は 39,094 円でした。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】

献本くださった方のお名前を書店便りにご紹介させていただきたいと思います。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆新連載「ちょっと早い私の遺言」が始まりました。老若男女、元気が病気がにかかわらず「遺言」を書いていたこうと思っています。もし声がかかったら、ご協力いただけるとありがたいです。申し訳ないのですが、原稿料はなし。いくつかの「遺言」をまとめて本にすることを夢んでいます。◆からしだね館の愛犬デブが逝ってもうすぐ1年になります。思いがけずデブのにんぎょうをプレゼントしていただき、からしだね館、泣く人続出でした。◆「今年の夏もまた、猛暑になるようです。どうぞ皆様、ご自愛ください。【店長】

【「小さな命に寄り添う」会場変更のお知らせ】

7月12日に開催する講演会「小さな命に寄り添う」の参加希望者が、思っていたより多くなりそうなので、急遽、会場を変更して行うことになりました。からしだね館のある小野駅の1駅南、からしだね館からは徒歩でも10分の場所です。引き続きお申込みをお待ちしております。

CLCからしだね書店第5回トークライブ「小さな命に寄り添う」

講師：松原宏樹さん 時：2025年7月12日(土) 14:00～15:00

場所：京都市醍醐交流会館(パセオダイゴロー西館)2階第2会議室
(オンラインでも配信しますので、お申込みください)



編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援B型事業所からしだねワークス
CLCからしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216

京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

書店電話番号

075-574-1001 FAX 075-574-0025

書店メール

clc@karashidane.or.jp



CLCからしだね書店便りのバックナンバーはこちらから

